

麻酔科専門医に聞く

富山ろうさい病院

副院長（麻酔科部長）

かたおか ひさのり
片岡 久範



情報共有はチーム医療の要 あと一步の前進を



当院では、年間約850件全身麻酔での手術が行われています。予定の手術は、ほとんどが平日の午後に行われますが、緊急を要する手術の場合は、時を問わず、夜間や休日にも行われます。予定された手術は、検査データなどの確認ができ、手術前に診察を済ませることが出来ます。一方緊急手術の場合は、限られた時間の中で、情報収集、診察、検査依頼などを行うことになるので、とても複雑な思いをします。

少しだけ、全身麻酔についてお話ししましょう。全身麻酔は、患者さんの反応を最低限にして、深い深い眠りに陥れるため、呼吸の補助が必要になります。麻酔科医は、喉から肺の入り口に直径1cm程の管を入れます。この操作は、通常非常に短い時間で終わりますが、この操作中に胃の中にあるものが逆流するととても危険な事態になるため、全身麻酔の手術前には、絶食をお願いしていることをご承知おきください。しかし、緊急手術の場合、直前まで食事をされていたりして、大きなリスクをはらむ状態になります。緊急手術という時間的制約の中で患者さんの安全を因る為、私たち医療従事者が、自分たちの持てる力を集めて、チームで関わっていきたいと思います。

さて、最後に自省を少し述べます。私は、時々救急外来で初期診療にあたります。診療の流れは、下記のとおりです。

- 1.経過をお聞きし、患者さんにおきている問題点をあげる。
- 2.基本的な診察を行ったうえで、必要な検査を指示する。
- 3.データを基に診断（疑いを含めて）を付ける。
- 4.様子を見て、帰宅可能か、専門医に診察を依頼するかという転帰を決める。



医師は、それぞれの専門領域があり、平日昼間の通常業務は、自分の得意とする分野を追求できますが、いざ救急対応となれば、専門外の患者さんにも遭遇します。上記のように診断し、転帰を決める時、自分以外の人達に患者さんの情報を積極的に伝え、情報共有することで、より適切な診断に結び付けることができると思います。病院に働く多職種が連携し、活発にその機能を発揮する為、まずは自分からあと一步だけ前に踏み出そうと思います。

【平成30年度 魚津市 市民公開講座のお知らせ】

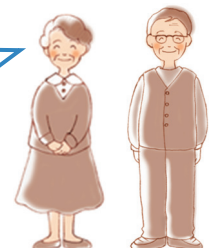
日時：平成30年9月9日（日）13:30～16:00

場所：新川文化ホール 小ホール

テーマ：～いつまでも輝く女性であるために～

『女性の病気について知る』

入場無料
ミラたん健康ポイント
がもらえます！



※ご家族も一緒に気軽に話を聞きに来てください

発行：独立行政法人労働者健康安全機構富山労災病院 地域医療連携室
富山ろうさい病院だよりは、当院ホームページにも掲載しています。
【連絡先】 0765(22)1280（病院代表）
E-mail: chiiki2@toyamah.johas.go.jp